

青森県経済統計報告

平成19年5月8日
企画政策部統計分析課

1 青森県の推計人口（平成19年4月1日現在）..... 1

県人口	1,412,767人（対前月6,730人減少）
自然動態	465人減少（出生者数831人、死亡者数1,296人）
社会動態	6,265人減少（転入者数3,722人、転出者数9,987人）

2 本県の経済動向

（1）経済概況

本県経済は、生産面を中心に、堅調に推移している。

（2）主要経済指標の動向

- (2-1) 製造業の生産動向 平成19年2月の青森県鉱工業生産指数(平成12年=100)は、季節調整済指数が96.0で、前月比0.9%の低下となり、2ヶ月連続で前月を下回った。また、原指数は87.1で、前年同月比6.0%の上昇となり、4ヶ月連続で前年同月を上回った。 ... 2
- (2-2) 雇用情勢 平成19年2月の定期給与は225,171円で前年同月と同水準となった。総実労働時間は154.0時間で前年同月比3.1%減、所定外労働時間は9.8時間で前年同月比9.3%増となった。
平成19年3月の有効求人倍率(季節調整値)は0.43倍で、前月比同水準となった。 ... 3
- (2-3) 物価 平成19年3月の青森市消費者物価指数は、平成17年を100として99.3となり、前月と比べ0.3%の上昇、前年同月と比べ0.9%の下落となった。 ... 4
- (2-4) 個人消費 平成19年2月の大型小売店販売額は、全店舗ベースが135億3千2百万円で前年同月比2.6%増と6ヶ月ぶりに増加、既存店ベースでは0.3%減と15ヶ月連続で減少となった。
平成19年3月の軽自動車を含めた乗用車新車登録・届出台数は7,247台で、前年同月比4.3%の減となり、5ヶ月ぶりに前年を下回った。 ... 5
- (2-5) 住宅建設 平成19年3月の新設住宅着工戸数は412戸で、前年同月比34.6%増となり、5ヶ月ぶりに前年を上回った。 ... 6
- (2-6) 電力使用量 平成19年3月の大口電力使用量は2億4,461万kWhで、6ヶ月連続で前年を上回った。 ... 6

（3）景気動向指数（平成19年2月分）..... 7

先行指数	44.4%（2か月連続で50%を下回った）
一致指数	55.6%（4か月連続で50%を上回った）
遅行指数	41.7%（2か月ぶりに50%を下回った）

（4）青森県景気ウォッチャー調査（平成19年4月期）..... 8

3ヶ月前と比べた景気の現状判断DI	47.4（前期比1.4ポイント増、24期連続50を下回る）
3ヶ月後の景気の先行き判断DI	50.8（前期比0.5ポイント増、2期連続で50を上回る）

1 青森県の推計人口(平成19年4月1日現在)

【概況】

平成19年4月1日現在の本県推計人口は、1,412,767人で、前月に比べ6,730人の減少となった。

○自然動態

出生者数が831人、死亡者数が1,296人で、465人の減少となった。

○社会動態

転入者数が3,722人、転出者数が9,987人で、6,265人の減少となった。

総人口の推移

(単位:人)

	総数	性別		対前月増減率	増減数	自然増減数	自然増減数		社会増減数	県外からの転入者数	県外への転出者数
		男	女				出生者数	死亡者数			
昭45.10.1	1,427,520	685,477	742,043	-	10,929	-	-	-	-	-	-
50.10.1	1,468,646	707,232	761,414	-	41,126	-	-	-	-	-	-
55.10.1	1,523,907	735,444	788,463	-	55,261	-	-	-	-	-	-
60.10.1	1,524,448	731,439	793,009	-	541	-	-	-	-	-	-
平2.10.1	1,482,873	704,758	778,115	-	-41,575	-	-	-	-	-	-
7.10.1	1,481,663	704,189	777,474	-	-1,210	-	-	-	-	-	-
12.10.1	1,475,728	702,573	773,155	-	-5,935	-	-	-	-	-	-
17.10.1	1,436,657	679,077	757,580	-	-39,071	-	-	-	-	-	-
18.4.1	1,426,703	673,671	753,032	-0.418%	-5,992	-393	925	1,318	-5,599	4,191	9,790
18.5.1	1,425,934	673,296	752,638	-0.054%	-769	-356	818	1,174	-413	4,422	4,835
18.6.1	1,425,271	672,856	752,415	-0.046%	-663	-271	984	1,255	-392	1,643	2,035
18.7.1	1,424,530	672,338	752,192	-0.052%	-741	-279	910	1,189	-462	1,345	1,807
18.8.1	1,424,090	672,039	752,051	-0.031%	-440	-217	914	1,131	-223	1,930	2,153
18.9.1	1,423,840	671,898	751,942	-0.018%	-250	-239	923	1,162	-11	2,171	2,182
18.10.1	1,423,412	671,651	751,761	-0.030%	-428	-146	940	1,086	-282	1,590	1,872
18.11.1	1,422,852	671,368	751,484	-0.039%	-560	-259	946	1,205	-301	1,737	2,038
18.12.1	1,422,159	671,025	751,134	-0.049%	-693	-375	860	1,235	-318	1,201	1,519
19.1.1	1,421,519	670,706	750,813	-0.045%	-640	-503	786	1,289	-137	1,212	1,349
19.2.1	1,420,348	670,000	750,348	-0.082%	-1,171	-552	841	1,393	-619	1,099	1,718
19.3.1	1,419,497	669,462	750,035	-0.060%	-851	-393	763	1,156	-458	1,134	1,592
19.4.1	1,412,767	665,701	747,066	-0.474%	-6,730	-465	831	1,296	-6,265	3,722	9,987

3月中の人口動態の推移

(単位:人)

年月		平10.3	11.3	12.3	13.3	14.3	15.3	16.3	17.3	18.3	19.3
自然動態	出生者数	1,150	1,152	1,007	989	997	909	1,036	854	925	831
	死亡者数	1,245	1,189	1,207	1,127	1,141	1,262	1,279	1,522	1,318	1,296
	自然増減数	-95	-37	-200	-138	-144	-353	-243	-668	-393	-465
社会動態	県外からの転入者数	5,494	5,445	5,133	4,764	4,170	4,746	4,532	4,133	4,191	3,722
	県外への転出者数	11,750	11,178	11,241	10,284	10,224	10,366	9,993	10,234	9,790	9,987
	社会増減数	-6,256	-5,733	-6,108	-5,520	-6,054	-5,620	-5,461	-6,101	-5,599	-6,265

- 1 昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17年は国勢調査人口(確定値)。
- 2 平成18年3月以降の人口は平成17年国勢調査人口を基礎に推計している。
- 3 増減数は、昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17年が前回国勢調査、その他が前月推計人口に対するものである。
- 4 算出方法
 県の推計人口 = 前月の人口 + 自然増減数(出生者数 - 死亡者数) + 社会増減数(県外からの転入者数 - 県外への転出者数)
- 5 県の推計人口には、県内市町村間の移動者数を含んでいない為、各市町村の推計人口の総計とは一致しない。

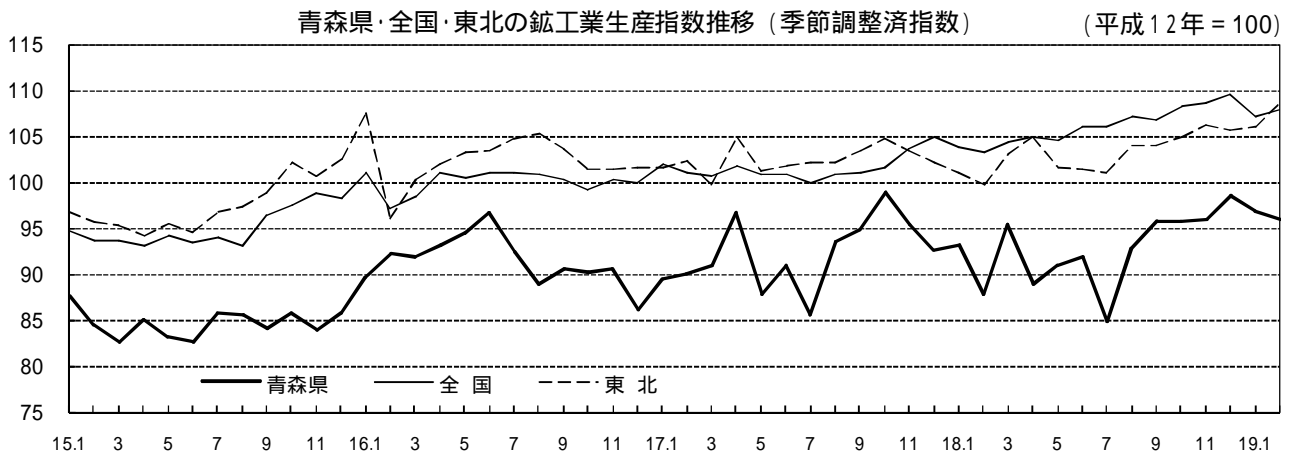
2 本県の経済動向

(2) 主要経済指標の動向

(2-1) 製造業の生産

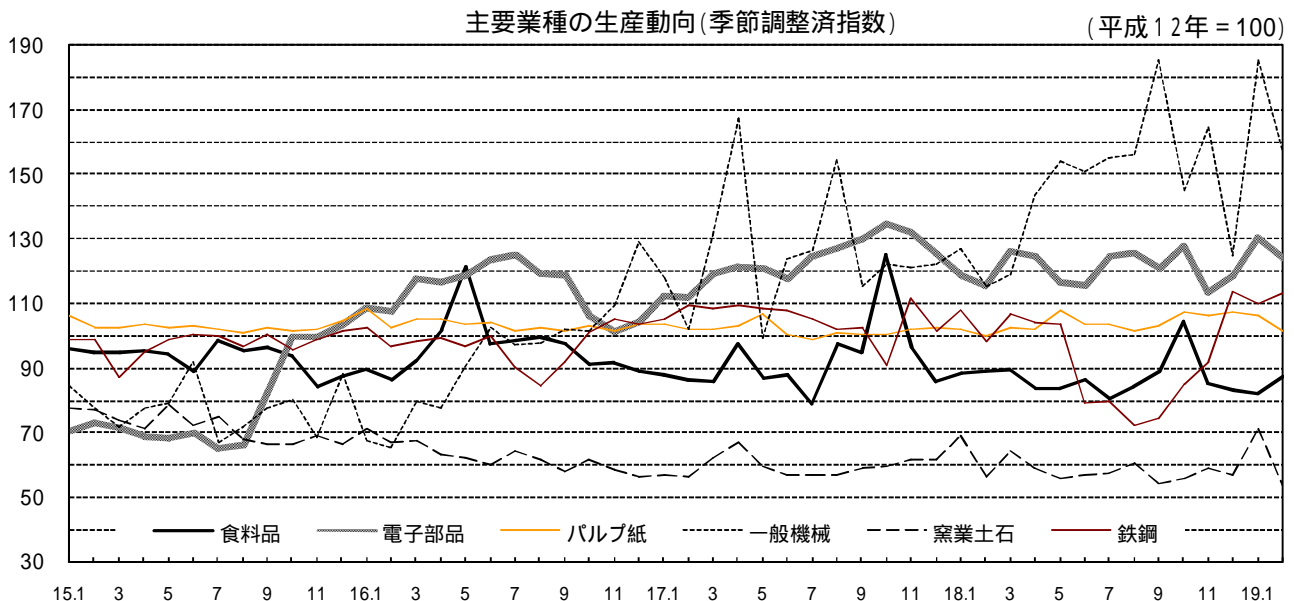
平成19年2月の青森県鉱工業生産指数(平成12年=100)は、季節調整済指数が96.0で、前月比0.9%の低下となり、2ヶ月連続で前月を下回った。また、原指数は87.1で、前年同月比6.0%の上昇となり、4ヶ月連続で前年同月を上回った。

季節調整済指数で前月からの動きをみると、食料品工業、金属製品工業、石油・石炭製品工業などが上昇に寄与した一方、一般機械工業、窯業・土石製品工業、化学工業などが低下し、鉱工業全体では0.9%の低下となった。



業種別動向 (前月比) 鉱工業全体 -0.9%

プラス			マイナス		
業種	前月比(%)	寄与率(%)	業種	前月比(%)	寄与率(%)
食料品工業	6.7	50.6	一般機械工業	-15.4	-60.8
金属製品工業	42.5	40.6	窯業・土石製品工業	-24.7	-36.2
石油・石炭製品工業	251.0	16.6	化学工業	-30.9	-27.7
繊維工業	6.9	7.3	電子部品・デバイス工業	-4.9	-26.9
鉄鋼業	2.8	5.8	電気機械工業	-6.4	-21.6



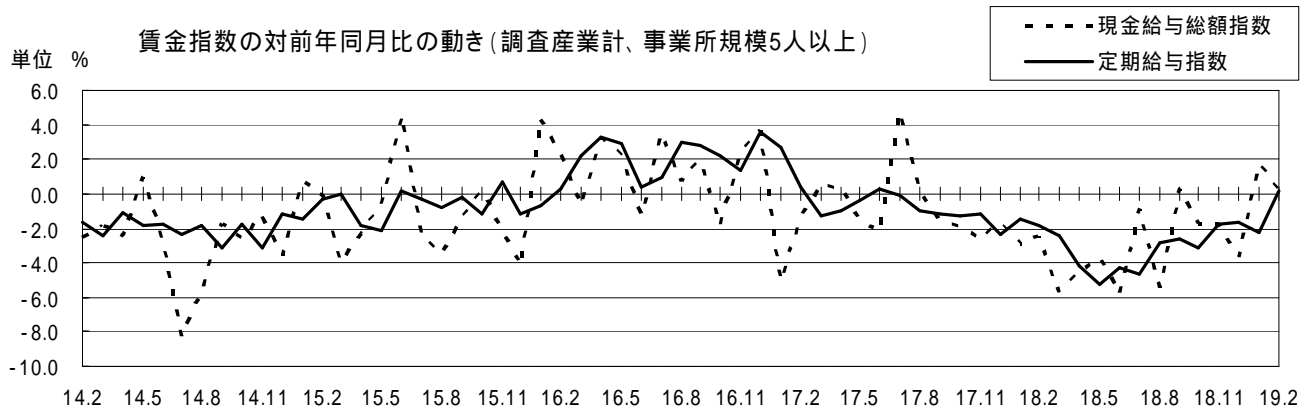
資料：県統計分析課「青森県鉱工業生産指数(速報)」

(2-2) 雇用情勢

平成19年2月の定期給与は225,171円で定期給与指数(平成17年=100)では97.8となり、前年同月と同水準、(現金給与総額225,560円、現金給与総額指数82.7、前年同月比0.1%増)となった。実額で比較した定期給与の全国対比は84.1となった。

所定外労働時間は9.8時間で、所定外労働時間指数では99.0となり、前年同月比9.3%増となった。

平成19年3月の有効求人倍率(季節調整値)は0.43倍で、前月比同水準となった。



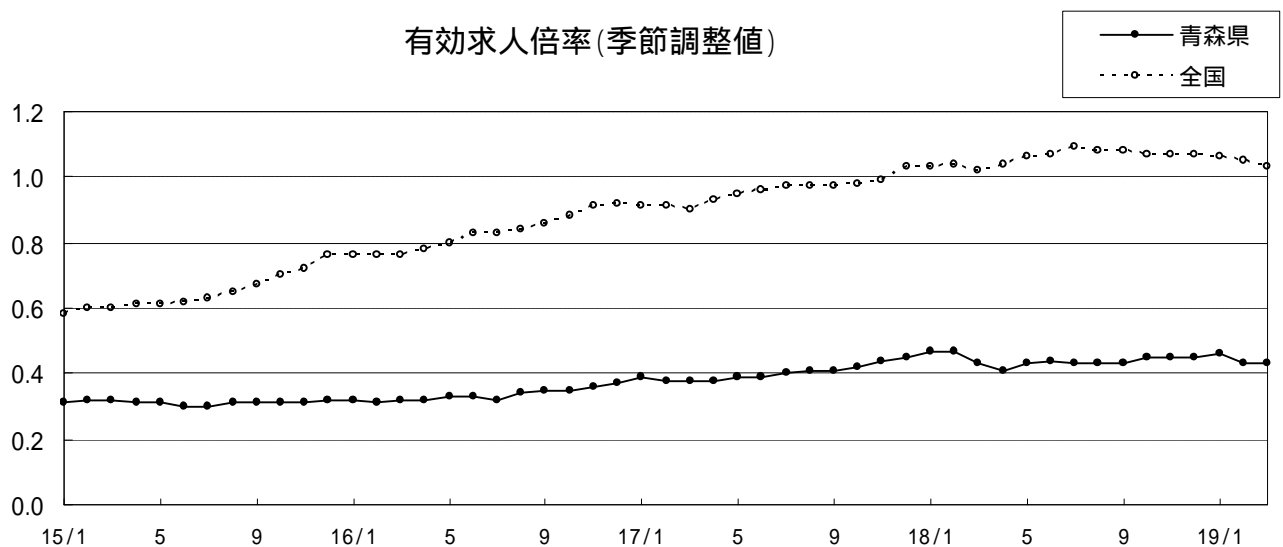
賃金及び労働時間の動き(調査産業計、事業所規模5人以上)

	実数		指数(H17=100)		対前年同月増減率	
	県	全国	県	全国	県	全国
現金給与総額	225,560 円	270,986 円	82.7	81.7	0.1 %	-1.0 %
定期給与	225,171 円	267,801 円	97.8	99.1	0.0 %	-0.5 %
特別給与	389 円	3,185 円				
総実労働時間	154.0 時間	148.5 時間	96.7	98.5	-3.1 %	-1.2 %
所定内労働時間	144.2 時間	137.6 時間	96.5	98.2	-3.9 %	-1.4 %
所定外労働時間	9.8 時間	10.9 時間	99.0	102.8	9.3 %	1.9 %

(注)1.定期給与とは「きまって支給する給与」のことである。

2.前年同月比は指数によって算出している。

資料:県統計分析課「毎月勤労統計調査結果(速報)」



資料:青森労働局職業安定部職業安定課「職業安定業務取扱月報」

(2-3) 物価

平成19年3月の青森市消費者物価指数(平成17年=100)は、総合指数が99.3となり、前月と比べ0.3%の上昇、前年同月と比べ0.9%の下落となった。

生鮮食品を除く総合指数は99.0となり、前月と比べ0.1%の上昇、前年同月と比べ1.0%の下落となった。

食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合指数は98.1となり、前月と比べ0.6%の上昇、前年同月と比べ1.0%の下落となった。

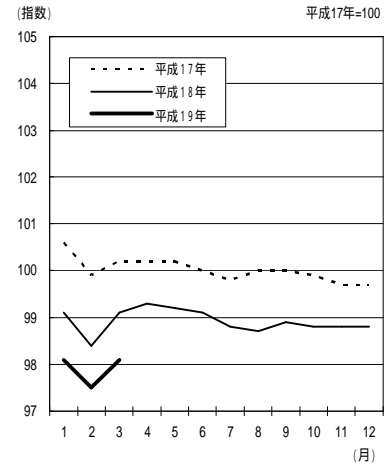
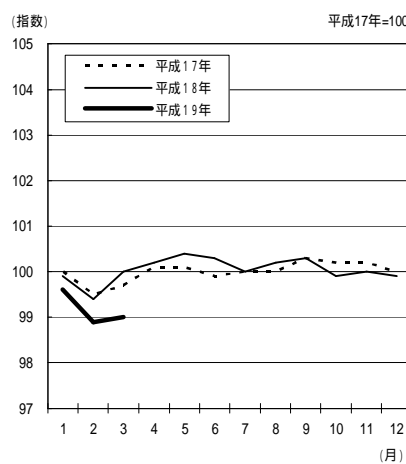
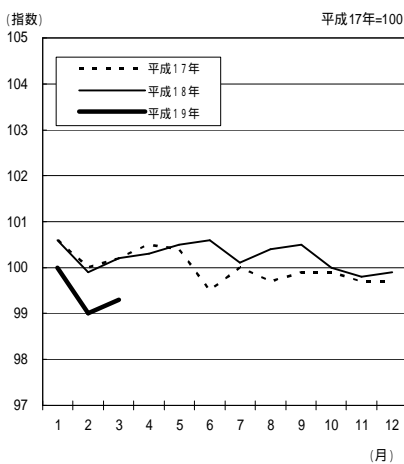
総合指数が前月と比べ0.3%の上昇となった内訳を寄与度で見ると、被服及び履物などの上昇が要因となっている。

総合指数の前年同月比が0.9%の下落となった内訳を寄与度で見ると、住居、食料などの下落が要因となっている。

図3 食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合指数の動き

図1 総合指数の動き

図2 生鮮食品を除く総合指数の動き



10大費目指数の動き

(平成17年=100)

	総合	生鮮食品を除く総合	持家の 帰属家賃を除く総合	食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合	食料	生鮮食品	住居	光熱・水道	家具・家事用品	被服及び履物	保健医療	交通・通信	教育	教養娯楽	諸雑費
当月指数	99.3	99.0	99.4	98.1	99.2	103.0	98.7	104.6	92.2	96.1	100.1	98.8	100.6	97.8	100.4
前月比(%)	0.3	0.1	0.2	0.6	0.0	1.3	0.5	1.1	0.1	5.1	0.2	0.6	0.0	1.3	0.2
寄与度	0.30	0.10	0.17	0.39	0.00	0.07	0.10	0.12	0.00	0.20	0.01	0.07	0.00	0.13	0.01
前年同月比(%)	0.9	1.0	0.7	1.0	0.8	0.8	1.5	1.5	1.1	0.5	0.1	1.6	0.4	0.5	0.2
寄与度	0.90	0.94	0.59	0.63	0.23	0.05	0.31	0.16	0.03	0.02	0.00	0.17	0.01	0.05	0.01

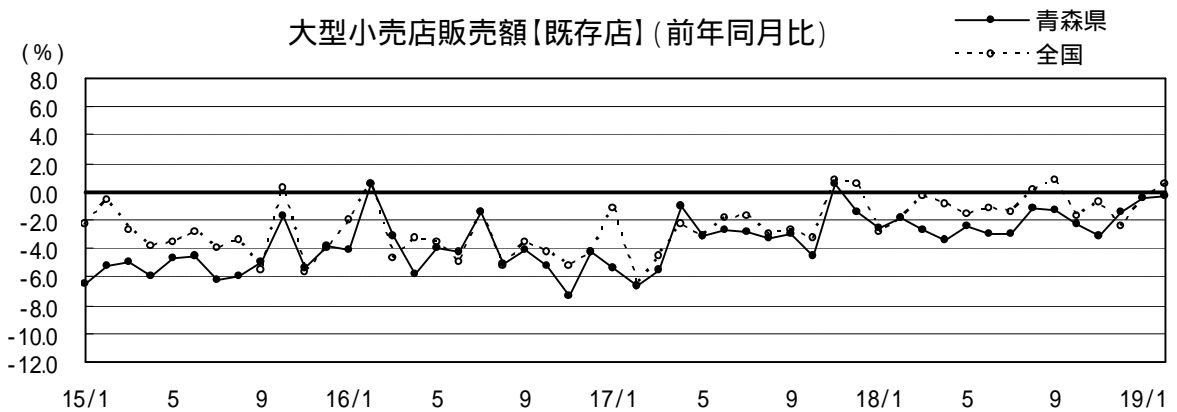
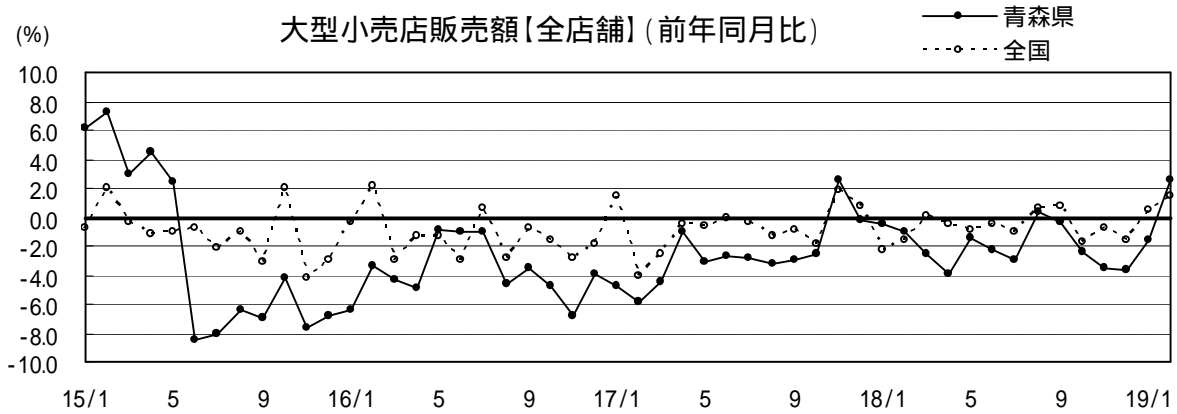
資料：県統計分析課「消費者物価指数月報」

寄与度とは、ある費目の指数の変動が、総合指数の変化率のうち何ポイント寄与したかを示したものであり、全費目の寄与度を合計すると、総合指数の変化率に一致する。

(2-4) 個人消費

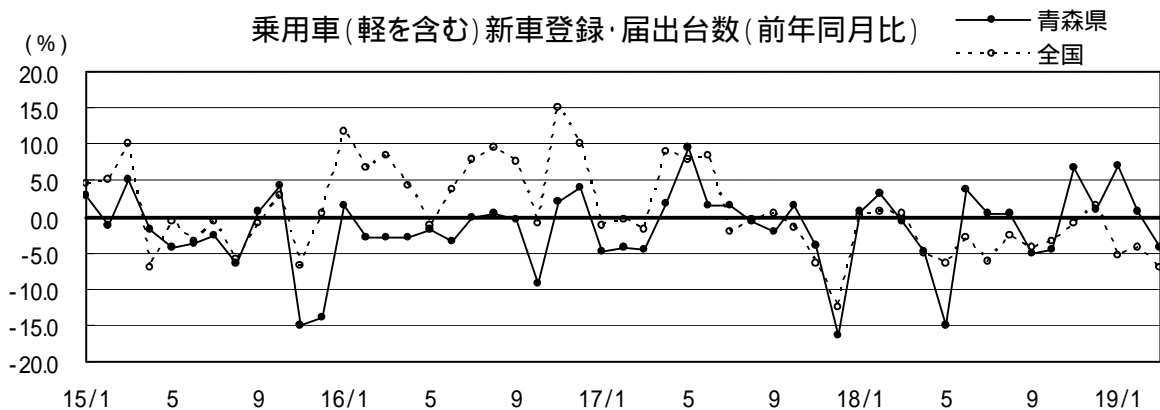
平成19年2月の大型小売店販売額は、全店舗ベースが135億3千2百万円で前年同月比2.6%増と6ヶ月ぶりに増加、既存店ベースでは0.3%減と15ヶ月連続で減少となった。百貨店は、春物衣料や身の回り品などが好調で、5ヶ月ぶりに前年を上回った。スーパーは、春物衣料や家庭用品などが好調だったものの、主力の飲食料品が振るわず、2ヶ月ぶりに前年を下回った。

平成19年3月の軽自動車を含めた乗用車新車登録・届出台数は7,247台で、前年同月比4.3%の減となり、5ヶ月ぶりに前年を下回った。軽自動車が10ヶ月連続でプラスとなったものの、普通車が3ヶ月ぶりに、また、小型車が12ヶ月連続でそれぞれ減少したことによる。



資料：東北経済産業局「東北地域大型小売店販売額動向」

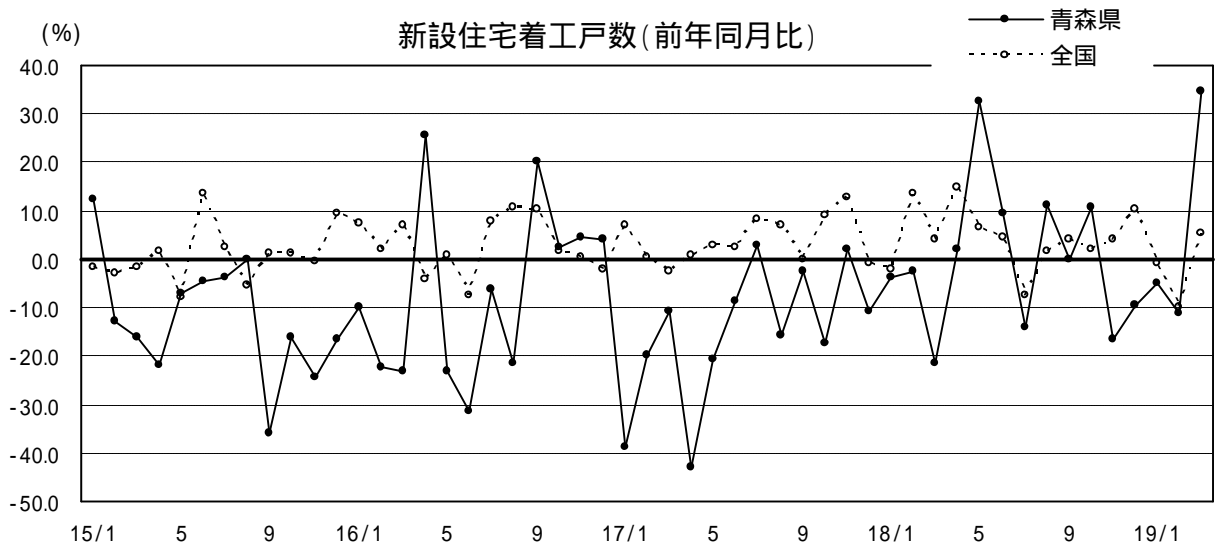
* 大型小売店は従業員が50人以上で売場面積が1,500平方メートル以上の商店をいう。そのうち、既存店とは、当月及び前年同月とも調査の対象となっている商店をいう。



資料：青森県自動車会議所「車種別登録・届出台数」、日本自動車販売協会連合会「自動車統計データ」

(2 - 5) 住宅建設

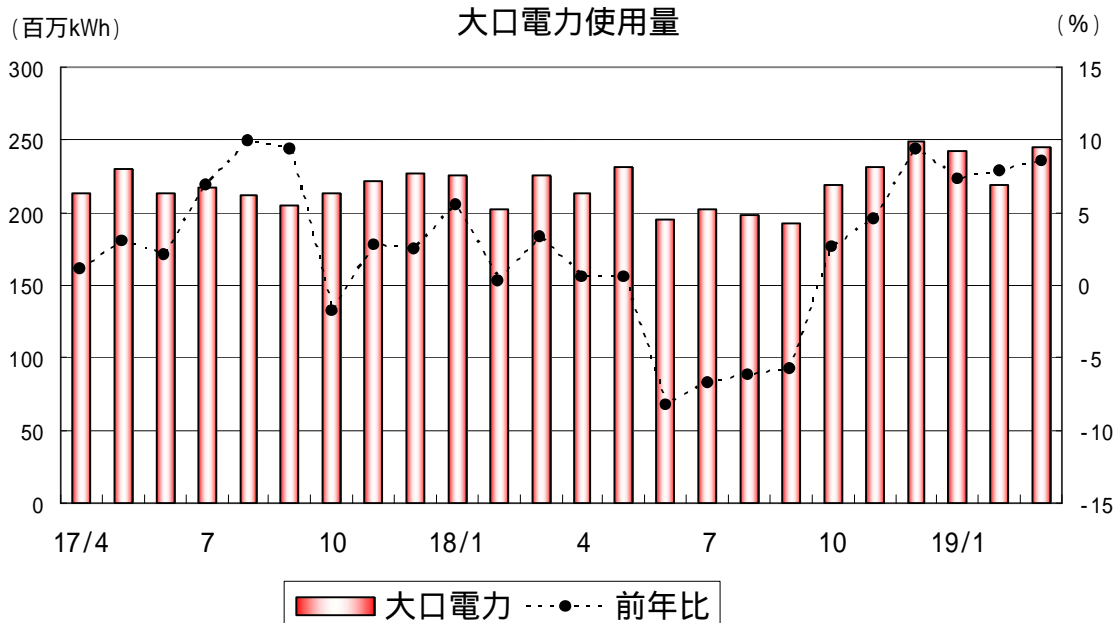
平成19年3月の新設住宅着工戸数は412戸で、前年同月比34.6%増となり、5ヶ月ぶりに前年を上回った。持家、貸家、分譲住宅がいずれも増加したことによる。



資料：県建築住宅課「建築着工統計」、国土交通省「建設統計月報」

(2 - 6) 電力使用量

平成19年3月の大口電力使用量は2億4,461万kWhで、6ヶ月連続で前年を上回った。



資料：東北電力(株)青森支店「電力需要実績」

(3) 青森県景気動向指数

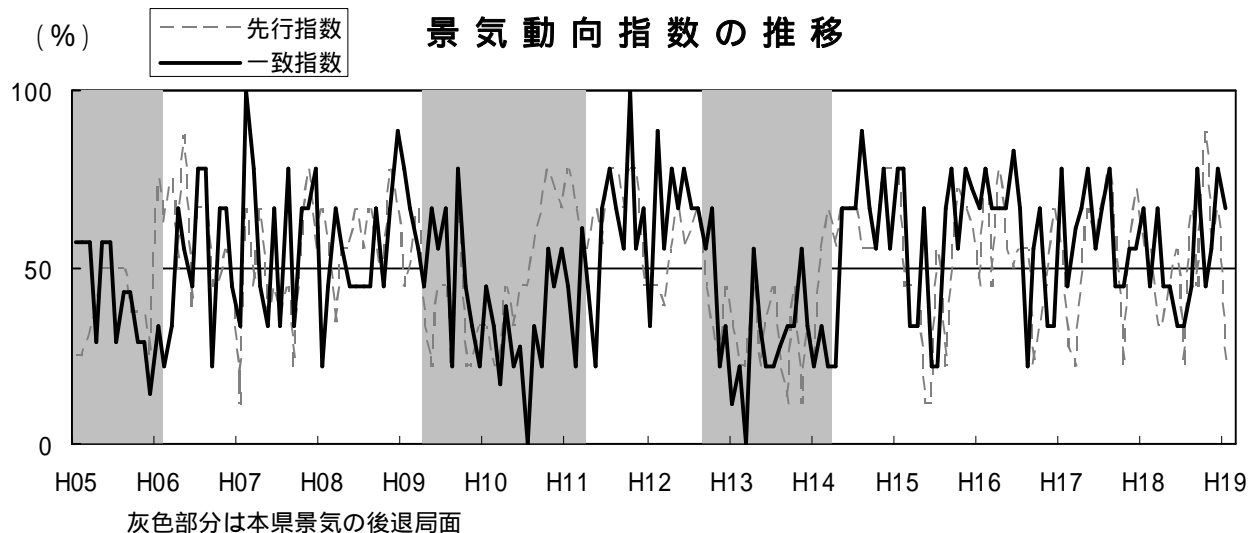
平成19年2月の青森県景気動向指数は、先行指数44.4%、一致指数55.6%、遅行指数41.7%となった。

先行指数は、2か月連続で50%を下回った。

一致指数は、4か月連続で50%を上回った。

遅行指数は、2か月ぶりに50%を下回った。

2月の一致指数は、消費および生産関連指標等がプラスとなったことから、50%を上回った。



個別系列の動き（各指標は季節調整等を行い、5ヶ月前と比較しています）

プラスの指標		マイナスの指標	
先行系列（9指標中4指標がプラス）			
乗用車新車登録届出台数	2か月連続	新規求人倍率（全数）	2か月連続
生産財生産指数	2か月ぶり	所定外労働時間指数（全産業）	2か月連続
建築着工床面積	3か月ぶり	入職率（製造業）	4か月連続
中小企業景況DI	2か月ぶり	新設住宅着工床面積	2か月連続
		企業倒産負債額	5か月ぶり
一致系列（9指標中5指標がプラス）			
大型小売店販売額（既存店）	3か月連続	電気機械生産指数	2か月ぶり
鉱工業生産指数	6か月連続	総実労働時間数（全産業）	2か月連続
大口電力使用量	4か月連続	海上出入貨物量（八戸港）	2か月ぶり
有効求人数（全数）	6か月連続	日銀券月中発行高	2か月連続
東北自動車道IC利用台数	2か月ぶり		
遅行系列（6指標中2指標がプラス）			
1人平均月間現金給与総額	2か月連続	勤労者世帯家計消費支出（実質）	2か月ぶり
輸入通関実績（八戸港）	4か月連続	単位労働コスト（製造業）	3か月連続
		青森市消費者物価指数（帰属家賃除く）	2か月連続

常用雇用指数（製造業）は、4か月ぶりにプラスの後保合

資料：県統計分析課「青森県景気動向指数月報」

(4) 青森県景気ウォッチャー調査

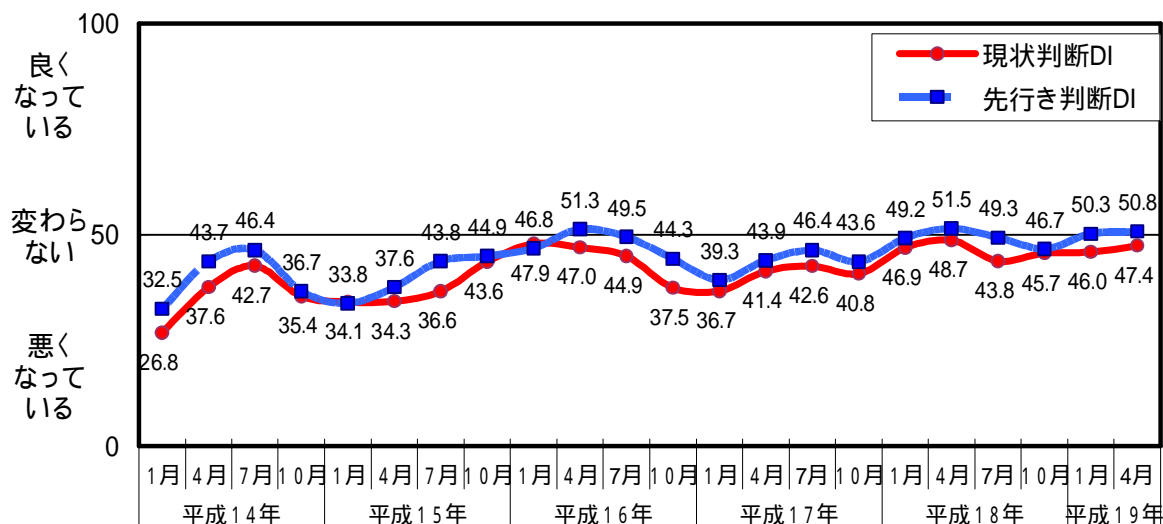
平成19年4月期の景気ウォッチャー調査は、4月2日～4月20日を調査期間とし、回答率98%となった。

3か月前と比べた景気の現状判断DIは47.4で、前期調査を1.4ポイント上回った。

3か月後の景気の先行き判断DIは50.8で、前期調査を0.5ポイント上回った。

4月期は、景気の現状判断DI、先行き判断DIともに前期を上回り、先行き判断DIは2期連続で横ばいを示す50を上回った。

景気現状判断DI・先行き判断DIの推移



3か月前と比べた景気の現状判断

動	<p>前期調査と比べると、「やや悪くなっている」が7.9ポイント減少したことにより、全体では1.4ポイント増の47.4となり、引き続き横ばいを示す50を下回ったが、3期連続で前期のポイントを上回った。</p> <p>判断理由をみると、1～2月の暖冬少雪、3月の天候不順による売上不振や客単価の伸び悩みをあげる声が多く見られる一方、求人が増加傾向にあるという声や一部で来客数が増加したという声が見られた。</p>
向	<p>前期調査に比べて、東青、県南地区においてポイントが増加したが、津軽、下北地区ではポイントが減少し、東青、津軽、下北の3地区において横ばいを示す50を下回っている。</p>

3か月後の景気の先行き判断

動	<p>前期調査と比べると、「変わらない」が6.5ポイント減少し、「やや良くなる」が4.2ポイント増加したことにより、全体では前期を0.5ポイント上回る50.8となり、2期連続で横ばいを示す50を上回った。</p> <p>判断理由を見ると、金利上昇に対する懸念や景気が好転する要素が見当たらないという声が多くある一方、桜祭りをはじめとする観光シーズンの到来や中央都市部の景気の波及効果を期待する声が見られた。</p>
向	<p>前期調査に比べて、東青、県南地区においてポイントが増加したが、津軽地区においてはポイントが減少した。下北地区は前期と同じであった。県南地区52.7、下北地区55.0と、2地区において、横ばいを示す50を上回った。</p>

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」

(参考)景気ウォッチャーによる景気判断理由(一部)

3か月前と比べた景気の現状判断理由

春で購買意欲がよくなっている。(食料品製造=県南)

客数増になってきている。(スーパー=県南)

前年同期と比較して、企業からの求人がやや増えている。景気回復の兆しか。(人材派遣=津軽)

天候に左右されているとは思いますが、3月下旬より急に天候不順が続き、上がりかけた売り上げが、4月というのに低迷している為、また、例年に比べ新入社員や転勤の動きが鈍い様な気がする(コンビニ=東青)

目に見えて良くなっている実感がない。その逆もない。(食料品製造=東青)

1人当たりの単価および買い上げ点数も下がっており、チラシの価格に非常に敏感になり、安さを求めているように思われる。(スーパー=下北)

1~2月の暖冬の影響にて冬物衣料等の売行きが鈍く、さらに3月の気温低下により、春物展開の立ち上がりに影響があった。その流れを4月まで引きずっている状況。(百貨店=津軽)

日常接している小売業では暖冬の影響で弱含みであり、建設業も一部の大手を除いて、苦しい状況が続いている。(経営コンサルタント=東青)

×街に人がいない!暖冬でタクシーの需要がない。(タクシー=県南)

3ヵ月後の景気の先行き判断理由

予約状況や、お客様のお話などから、青森への印象が良くなり、観光業としては好調の予感がする。(観光名所等=東青)

中央都市圏の景気が少しずつ近付くのでは。(設計事務所=県南)

変動要素が見当たらず、一般家庭の家計が良くなっているとは考えにくい。(競輪場=東青)

景気が向上する要素が見受けられない。当市は桜祭りが控えており、多少の上向きは期待できるが、大きな上向きはないと思われる。(商店街=津軽)

これといった好転するような状況は見受けられません。求人の改善もなさそうですので、買い控えの傾向は変わらないと思います。(一般小売店=下北)

製造業では材料高騰や人材不足があるので一気に景気が良くなることはないように思います。今の製品は高い技術が求められるので、採用した人が育つ中で徐々に仕事が拡大していく流れであると思います。(電気機械製造=県南)

金融機関の融資先の選別、金利高傾向により、季節的な陽気による気分的なマインドを吸収している。(住宅建設販売=津軽)

金利が上昇しており、企業の金利負担増となり収益が改善していない中では厳しい状況となる。(卸売業=県南)

×住民税アップによる可処分所得の減少。(コンビニ=津軽)

記号の意味: 良くなっている、やや良くなっている、変わらない、やや悪くなっている、×悪くなっている

資料: 県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」